

「四国へんろ道文化」世界遺産化の会  
2019年次フォーラム

入場  
無料

# 百年前の 四国遍路から学ぶ

平成31年 **3月21日(木・祝)** ■ 13:00~17:30 (受付12:30~)

■ 場所:久万高原町役場 大会議室 **当日受付 先着100名**  
(愛媛県上浮穴郡久万高原町久万212番地)

1918年、24歳の高群逸枝は熊本から四国遍路に旅立つ。約半年に及ぶ道中の記録を新聞に『娘巡礼記』として連載し、大変な評判となった。また1917年にはフレデリック・スタール教授が欧米人で最初の四国遍路の旅に出ている。松山に所縁のあるアルフレッド・ボーナーも1927年に遍路を体験、『同行二人の遍路』の著書を発表し世界に四国遍路を紹介した。

約百年前に女性や外国人が巡った遍路の事跡は、当時の実態を伝えてくれる貴重な記録で、世界遺産登録に向けての活動にも大きな示唆を与えてくれる。

## 娘巡礼記

高群逸枝著  
堀場清子校注

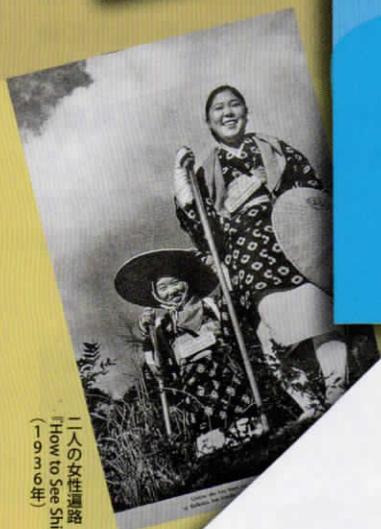


大正7年、24歳の高群逸枝(1894-1964)は四国へ旅立つ。家を捨て、職を捨て、恋を捨て、ただ再生を目指して。女性の旅行が好奇の目で見られた時代、旅先から書き送られたその手記は新聞に連載されて大評判を呼ぶ。八十八ヶ所巡礼中の苦しさと悟り、社会のど底に生きる遍路の姿、各地の風物をいさよと伝える紀行文学の傑作。



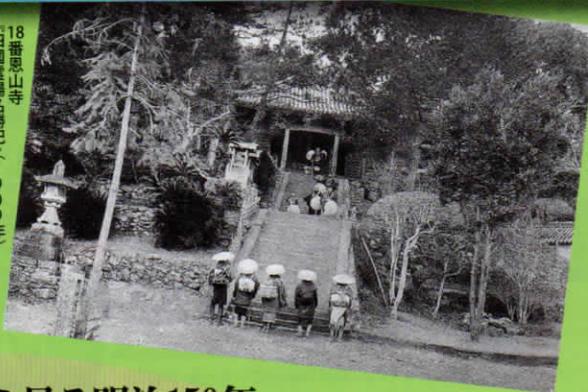
青N106-1  
岩波文庫

岩波文庫「娘巡礼記」表紙

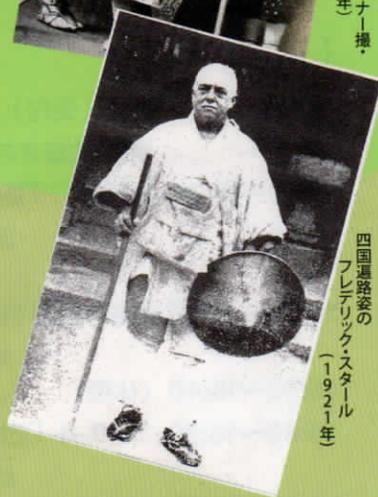


二人の女性遍路  
How to See Shikoku  
(1909年)

18番忍山寺  
「四国遍路を勝記」(1909年)



遍路中の母と娘たち「ボーナー撰」  
1927年



四国遍路姿の  
フレデリック・スタール  
(1921年)

基調  
講演 I

### 「四国遍路から見る明治150年 —『娘巡礼記』の歴史的背景—

えべす ひかる  
愛媛大学 法文学部教授 胡光氏

基調  
講演 II

### 「外国人が体験した100年前の四国遍路の様子」

じょうじ  
徳島大学 教養教育院准教授 モートン 常慈氏

コンサート

### 「四国お遍路の歌とお話」

ふじた よしこ  
NPO法人88プロジェクト理事長 藤田 賀子氏

◎主催:「四国へんろ道文化」世界遺産化の会、四国地域文化創造会議 ◎協賛:(公財)えひめ地域政策研究センター、えひめ地域づくり研究会  
◎後援:愛媛県、愛媛県教育委員会、松山市、松山市教育委員会、久万高原町、久万高原町教育委員会、国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所、「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会、四国八十八ヶ所霊場会、愛媛経済同友会、愛媛県商工会議所連合会、四国経済連合会、愛媛新聞社、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛、久万高原町商工会、久万高原町観光協会、久万高原町文化協会連絡協議会、久万高原町壮年会、久万公民館、久万高原警察署、きらら会(順不同)

【特別協賛】伊予銀行・愛媛銀行・愛媛信用金庫(順不同)

◎お問い合わせ 「四国へんろ道文化」世界遺産化の会 事務局 〒790-0932 松山市東石井6丁目12-36星企画(株)内 TEL:089-956-3555 担当/寺田・松木  
ホームページ=http://88henro.net mail=jimukyoku@88henro.net

「四国へんろ道文化」世界遺産化の会  
2019年次フォーラム

# 百年前の 四国遍路から学ぶ

日時 ■ 平成31年 **3月21日** (木・祝) 13:00~17:30  
(入場無料) ※受付は12:30~ 当日受付 先着100名

場所 ■ 久万高原町役場 大会議室  
愛媛県上浮穴郡久万高原町久万212番地



約百年前の大正7年(1918年)に、24歳の女性が熊本市から遍路の旅に出ました。その後、平塚らいてう等と共に女性運動を始め、「母系制の研究」「招婿婚の研究」などを著し、女性史学の開拓者として知られる高群逸枝です。大分県を經由し八幡浜に上陸、43番明石寺から逆打ちで久万高原町の44番大宝寺で結願。約半年に及ぶ道中の記録を、九州日日新聞(現在の熊本日日新聞)に『娘巡礼記』として105回連載され大変な評判となりました。

また、奇しくも1917年シカゴ大学のフレデリック・スタール教授が欧米人で最初の四国遍路の旅に出ています。彼は日本の民衆文化への関心を深め、特に納札の研究で知られています。旧制松山高等学校(現愛媛大学)で7年間教鞭をとったドイツ人のアルフレッド・ボーナーは、1927年に四国遍路に出かけ『同行二人の遍路』の著書や四国遍路に関する論文をまとめています。高群逸枝やスタール、ボーナーの事跡は、当時の遍路の実態を伝える貴重な記録で、その価値とともに様々な課題や視点を示してくれています。百年を契機に、幅広い視野で四国遍路の価値や課題を見つめ直したいと思います。



北海道から来た男性遍路(ボーナー撮・1927年)



51番石手寺でのハンセン病患者遍路(ボーナー撮・1927年)



スタール博士が22番平等寺を訪れた時の記念写真(1921年)

## 【プログラム】

- 12:30~ 開場(受付)
- 13:00~ 開会・主催者あいさつ 小山田 憲正(「四国へんろ道文化」世界遺産化の会 代表世話人)
- 13:10~14:20 基調講演①「四国遍路から見る明治150年-『娘巡礼記』の歴史的背景-」  
胡 光 氏(愛媛大学 法文学部教授)
- 14:20~15:30 基調講演②「外国人が体験した100年前の四国遍路の様子」  
モートン 常慈 氏(徳島大学 教養教育院准教授)
- 15:30~15:40 (休憩)
- 15:40~16:30 コンサート「四国お遍路の歌とお話」  
藤田 賀子 氏(NPO法人88プロジェクト理事長)
- 16:30~16:35 (休憩)
- 16:35~17:30 パネルディスカッション「女性と外国人の視点から、百年前の四国遍路を探る」  
・パネラー 胡 光 氏(愛媛大学法文学部教授)  
モートン常慈 氏(徳島大学教養教育院准教授)  
藤田 賀子 氏(NPO法人88プロジェクト理事長)  
原 恵美 氏(遍路宿「碧」女将)  
・コーディネーター 渡邊 浩二(「四国へんろ道文化」世界遺産化の会 世話人)
- 17:30 閉会のあいさつ 塩崎 満雄(「四国へんろ道文化」世界遺産化の会 代表世話人)

### ■ 藤田賀子(ふじたよしこ):

遍路歌手として旅をテーマに歌をつくり全国で公演。四国遍路のNPO法人の理事長としての顔ももち「お遍路プロジェクトCD」をリリース。売り上げは遍路道の保全活動に寄付のため積立中。  
公演出演歴:第37回四国八十八ヶ所霊場会公認先達大会歌謡公演(香川県民ホール)、しまなみ映画祭2017、高知県大月町夜桜音楽祭、平等寺初会式奉納歌など。

